

じっくりハネよう！ 卯年・おめでとうございます

本年もよろしくお願い致します！ 代表理事一同・事務局長

「知は力」「数も力」
学習を深め、仲間を
増やし、次世代に
平和を継承しよう！



Peace & Love



平和でなければ
命は守れません！



地域に共同の
輪を拓けよう！



事務局メンバー
で、しっかり頑張り
ます！



平和の大切さを、
ぜひ多くの人に
訴えよう！



愛と勇気と
平和のみなぎる
年にしよう！



『平和かわら版』とともに

鹿行平和委員会 二宮久美子

『平和かわら版』をいつも興味深く拝見し、平和のために日々行動されている方々に心から感謝し敬意を表します。一方、私は名前だけの会員でなかなか具体的な行動ができず、これでもいいのかしらと時々反省しています。現役の時は『忙しくて時間がないから思うようにできない。退職したらじっくりできるはずだ』と思っていたのに、退職してもやはり雑事に追われてあれこれ言い訳しています。

そんな私の2010年、平和委員会との関わりでの一番の思い出は5月3日の憲法フェスティバルです。とにかく楽しいから、と言いくるめて、年老いた母親（会場から徒歩10分に住む）、県外から姉、娘や甥の家族・0歳から87歳まで総勢11名で参加しまし

た。素晴らしいお天気の下、幼子たちはのびのびと駆け廻り、若者は模擬店で食べまくり、夫は茨城空港の展示に茶々をいれ、私は大好きなエイサーを鑑賞し、母は木陰で目を細めてみんなを見守っていました。平和について深く学習したとは言い難い家族ですが、久しぶりにみんなで楽しいひと時を過ごし、私は平和の尊さを改めて実感しました。（補足：家族を返した後、私は記念講演をしっかりと聴きました。）またこの日は、地域で平和活動している知り合いにもたくさんお会いすることができ、繋がりを感じてとても嬉しかったです。

私は戦争のない時代に生まれ育ちましたが、このことを次の世代にも引き継がなければなりません。沖縄の基地問題をはじめ、世界のあちこちで戦争や貧困などで苦しんでいる人たちを忘れずに、今年も「かわら版」で勇気付けられながらささやかでも歩みたいと思います。

第4回 常任理事会 開催のお知らせ

秋の取組みを振り返り、今後の取組みについて意思統一を図るために、下記のとおり第4回常任理事会を開催します。ご出席をお願いします。

1. とき：1月14日(金)午後1時半～4時半
2. ところ：水戸市民会館(2階201号・和室)
3. 議題：(1)取組みの経過とまとめ
(2)今後のとりくみ
(3)その他



第3回 理事会 開催のお知らせ

常任理事会の提案を受けて方針を練り上げるため、下記のとおり第3回理事会を開催します。ご出席をお願いします。

1. とき：1月29日(土)午後1時半～4時半
2. ところ：水戸市民会館(中会議室・101号室)



歓迎！新入会員のみなさんです
宜しくお願いします。

篠原 宣夫 さん（守谷市）
宗田 亜子 さん（阿見町）
水野 美奈子 さん（阿見町）

各平和の会(平和委員会)のみなさん一人ひとりの力で、月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

平和新聞

2010年12月25日・2011年1月5日
1945号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 583 合併号
2010.12/25・2011.1/5

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

○ 新春随想 ○



『熱いところと冷めた眼ざし』

善照寺住職・大谷 隆照 (五霞)



先日久しぶりにラッシュアワーの電車に乗りました。殺人的な込み具合でした。多くのサラリーマンが朝晩これに耐えているかと思うと、空恐ろしくなりました。15分くらいでしたが、その時間は人間であることをやめて、物になってしまうしかないと思いました。

いまの社会は、日本に限らないと思いますが、自分で考えることや、判断することをやめて、すなわち人間であることをやめてしか生きられないという場面が多くなっているのではないのでしょうか。例えば「いじめの社会」、これは子供の社会に限ったことではありませんが、これらも人間のレベルではありえないことだと思いますし、無縁社会、孤独社会といわれる現象も同様です。

仏教では、「こころ」がひとつになるのが仏様の世界。「こころ」が通じるのが人間の世界。「こころ」が通じないのが地獄の世界とされています。

今はまさに地獄の様相が色濃くなりつつあるといえます。戦争はまさに地獄そのものです。人をして、一瞬にして心の通じない地獄の鬼に化してしまうのが戦争です。中国、ロシア、北朝鮮等との関係が波立つ中、軍事強化、核武装化という流れができる恐れがあります。

今、平和運動に携わる人間に求められるのは、熱い心と冷めた眼差しだと思います。熱い心とは、豊かな想像力と言い換えてもいいかも知れません。いじめる子、いじめられる子。寒さに震えるホームレスの人たち。孤独死を待つ老人。国家権力に踊らされている庶民といわれる人たち。苦しみにあえぐあらゆる国の人たちへ、あらん限りの想像力の糸を伸ばすこと。それが熱いところ です。

冷めた眼差しとは、様々な情報に惑わされることなく、常に原点に立ち戻って考え判断していくことです。その原点とは、日本国憲法の中にあることを忘れてはならないと思います。



日本平和大会 in 佐世保 報告

『日米軍事同盟打破、基地撤去』

那珂平和委員会・川又 俊水



12/3 (金) 全体集会1 オープニング では、沖縄から知事選挙の報告がありました。県内移設反対を掲げた伊波洋一氏が惜敗したが、「基地撤去をめざす沖縄県民の意思は揺るがない」、伊波洋一からは、これから闘いであると力強いビデオメッセージがあり、沖縄の闘いが全国を励まし、運動を広げる力になっていると感じました。

佐世保の皆さんからは、少年少女合唱団やよさこいグループ、マイケル・ジャクソン市民の会など、楽しい歌やおどりで歓迎され、若者や初めて参加した人にも配慮されていることを感じました。

国際発言として、アメリカ：ガーソンさん、フィリピン：ファブロスさん、韓国：イーさん各人から発言があり、またアフガニスタン：アルコザイさんが紹介されました。

基地調査行動には到着が遅く参加できませんでした。初めて佐世保にきた人には参加できるよう配慮が必要と感じました。

12/4 (土) シンポジウムと、分科会が11の会場に分かれてそれぞれ実施されました。

私は、『「韓国併合」100年—東アジアへの植民地支配と武力侵略への「戦後補償」の完全な清算を』分科会10.に参加しました。戦後65年すぎても今尚解決していない未解決の問題が多数残っていること、それぞれの国で見解が異なっている事柄をどうやって歴史認識を深めていけるのかを話し合いました。

北朝鮮が韓国を砲撃したことは、「許せない蛮行」と批判。これらの情勢をより深く理解することができました。

佐世保：長崎県内第2位の人口を有する佐世保市は、明治19(1886)年、旧海軍により軍港として使われ、さらに戦後は米軍海軍基地として、佐世保(長崎県)を母港とする強襲揚陸艦部隊(遠征打撃軍)、原子力潜水艦の入港、弾薬庫、燃料タンクの基地設置など重要な米軍基地となっています。

「米兵わがもの顔」：「米兵が基地の外、市内の高級地(広い住宅)」に住み、市内の街も「米兵わがもの顔」に歩いていました。木村さんと私が、ラーメン店で食事をしていると米兵が6人もおり、代金はドルで支払っていました。

『代表理事・常任理事はこんな人』

第11回目は、常任理事・近藤 輝男さんです。



太平洋戦争が始まった年に生まれました。信州の片田舎であったためか悲惨な経験はありませんが、ひもじい思いや都会の人が食料を買出(物々交換)にきていたこと、教科書がところどころ墨で塗りつぶされていたことなどを覚えています。

昨年、娘に子供が生まれました。孫の顔を見ながら、あの理不尽な戦争で国内外の多くの前途ある若者や純粋無垢な幼い命が奪われましたが、親はどんなに嘆き悲しんだことだろうかと思いつつながら、この世に生を受けたものの命の重さと平和の尊さを改めて感じました。平和は命の安全保障です。

毎年続ける／12月8日に／土浦 母親連絡会「赤紙」配り



「赤紙」一枚で戦場に狩り出されたあの無謀な戦争を再び繰り返してはならないと、母親連絡会が太平洋戦争開戦の12月8日に毎年訴えてきた「赤紙」くばり。2010年12月8日も、16人の参加でハンドマイクで訴え、約500枚を配りました。

「赤紙」一枚で狩り出された兵士たちのうち230万人が「戦死」し、そのうちの半数は餓死であったと言う事実さえ、長い間国民の多くは知らされていなかったのです。

(土浦平和の会ニュース No.225)



【土浦駅ペDESTリアデッキでの「赤紙」くばり】

戦争は自国の犠牲だけに留まらないことは言うまでもなく、アジアの3,000万人を犠牲にしてしまったのです。この事実を戦争を知らない若者に伝えて続けていきたい。